

あと施工アンカーの戦士たち

**コアだけじゃない！
あと施工アンカー資格多数います**

近年、耐震工事など増えていく中欠かせない工事があると施工アンカー工事である。あと施工アンカー工事には削孔、打設(定着)、引張試験があり、施工するためには有資格者でなければならぬため、ワイ・エム・ケーは現在までに多数の有資格者を育ててきた。

耐震工事の他、機械据え付けのためのアンカー工事、既存アンカー再利用確認のための引張試験。アンカー工事でも一貫施工できるのがワイ・エム・ケーの強みだ。

**高性能・深度30cm以上でも
探査可能なレーダ探査機**

あと施工アンカーを行う際、既存躯体へアンカーを打つが、削孔時鉄筋に干渉し、再削孔を行う事がある。再削孔を未然に防ぐためには非破壊検査の探査が有効となってくるが、ワイ・エム・ケーは深度30cm以上を読取れる高性能なレーダ探査機を5台所有している。近年、橋梁工事等では探査報告書も求められるが、ワイ・エム・ケーでは報告書の作成まで行う事が出来る。



◆鉄筋レーダ探査による鉄筋位置の確認中。



◆アンカー施工のために躯体に罫書き鉄筋位置を出す。

**どんなサイズにも対応な
引張試験**

引張試験はD10～D51(MネジはM8～M48)まで対応できるように様々な試験機を多数所有。アンカーサイズ、引張試験用ボルトの延長加工など現場状況に合わせた対応が可能だ。



◆M8～M24まで対応。小型デジタル式引張試験機。
◆D10～D51まで対応。小型、中型、大型油圧式引張試験機。

あと施工アンカー有資格者籍人数

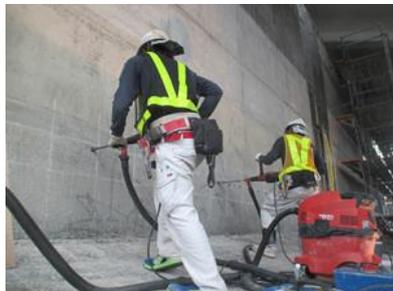
あと施工アンカー主任技士
あと施工アンカー1種
あと施工アンカー2種

1名
9名
10名

施工例



◆注入工(エポキシ樹脂)



◆削孔(ドリル・集塵ビット使用)



◆削孔(上向きコア)



◆鉄筋レーダ探査



◆各報告書の作成



◆引張試験(中型・油圧・横向き)



◆引張試験(小型・油圧・横向き)



◆引張試験(デジタル)

開口一番！ウォールソーイング工法

ワイ・エム・ケー news

VOL. 11

ウォールソー
アンカー
工事特集

X線検査
鉄筋レーダ探査
コアボーリング
ウォールソーイング
ワイヤーソーイング
道路カッター
アンカー工
地中レーダ探査

いろいろコソコソ
やっています。
わたしたちは

ワイ・エム・ケー



市内工事 ウォールソーによる 開口作成工事

2021年晩夏に、静岡市内の某大学にて床の開口作成工事を行った。今回の工事は、3階2階の床面に2500mm×2500mmの開口を作り、エレベータを新たに設置するための工事であった。

当初お客様の施工計画では、研り工事にて開口作成を行う予定だったが、急遽施工計画を見直す必要があり、ワイ・エム・ケーにご相談をいただいた。そんな時にこそ、お客様に寄り添った対応するのが、ワイ・エム・ケーの真骨頂であり会社の理念・方針である。まず最初に、お客様が施工計画を見直すこととなった要因とご要望をしっかりとヒアリングした。お客様からの要望は

- ① 汚泥を出さない。
- ② 墨のラインを正確に切断すること。
- ③ 切断面は研り後のような凹凸がなくフラットな仕上がりにすること。
- ④ 残す躯体を傷つけないこと。
- ⑤ 2日間の工期で納めること。

以上の事より、今回は乾式ウォールソー工法をご提案した。しっかりとヒアリングさせていただいているので、問題なくご採用いただけた。

水を使わない工法 乾式ウォールソーを採用

乾式ウォールソー工法において左記写真の機械を使用することにした。特徴としては、

- ① 水を使用しないので汚泥で濡れない。
 - ② 粉塵が多量に発生するが、集塵機にて収集することができる。
 - ③ 切断精度が高く、レベル上に設置する為、直線的に切断できる。
 - ④ 切断深さを一定にしてカットできる。
 - ⑤ 乾式は300mmまで(湿式は500mmまで)切断することができる。
 - ⑥ 軽量で、幅をとらない。
 - ⑦ 5kVAの発電機で使用できる。
- (湿式で高周波の場合は45kVA)
以上が主な特徴である。

特に建築改修で壁・扉・窓枠を作る工事、耐震補強スリット工事、などで活躍している。

■今回使用する 電動ウォールソーの機械



■作業風景



■撤去風景



今回のご依頼は切断後の躯体を開口横まで仮置きする迄となっていた。その為、チェーンブロックを駆使しながら撤去する工法を選択した。撤去躯体は1フロアにつき2つ。計4つの躯体を撤去する。

まずは撤去準備として、開口を挟んで両側の天井にアンカーを打ち、チェーンブロックを両側に1つずつ取付けた。撤去躯体には、それぞれ4点にアンカーを打ち、ワイヤーを設置した。

撤去作業は、両側のチェーンブロック2つに撤去躯体のワイヤーを繋ぎ、両側から引張る緩めるを繰り返して、開口横まで撤去した。この作業を2躯体分行い、安全に撤去することが出来た。

施工例



◆建物解体前の縁切。湿式の為、貫通して汚泥がいかないように深度管理を行いながら施工。



◆工場内に扉をつけるための開口作成。汚泥が出せない現場で、乾式にて粉塵を吸いながら施工。